



(漫画：圓山道子さん)

私たちは お客様の
想いと夢をデザインします…

熊本市協賛
熊本市文化スポーツ財団
熊本市協賛
熊本市協賛

〒860-0051 熊本市西区二本木3丁目12-37
TEL.096-353-1291 FAX.096-351-4303
Home page <https://www.colony-k.com/> E-mail soumu@colony-k.or.jp

～心とからだの健康づくり～
(一財)熊本市文化スポーツ財団
子どもからシニア世代まで参加できる
スポーツ・健康・文化教室開催中!

<http://www.colony-k.jp>

熊本市立
熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

【商学部】 【経済学部】 【外国語学部】 【社会福祉学部 (第一部・第二部)】

〒862-8680 熊本中央区大江2丁目5番1号 TEL.096.364.5161(代表) URL www.kumagaku.ac.jp



新作DVDの紹介

新刊が入荷しましたのでぜひご利用ください。

- はじめて学ぶLGBTs
①男らしい色?
②女らしい色?
- はじめて学ぶLGBTs
②好きになっては
いけないの?



- 大切なひと
- あなたは大丈夫? 考えよう! デートDV



- あなたは大丈夫? 考えよう! いじめ ～一人で悩まず相談しよう～
- あなたは大丈夫? 考えよう! 児童虐待



Voice

会員の皆様より、社会貢献活動や人権啓発への取り組みについてお話しできます。



アイシン九州株式会社
遠藤 眞 代表取締役社長
(令和6年度(2024年度) 理事)

アイシン九州は、1993年にトヨタグループの中核部品メーカーである株式会社アイシンの子会社として熊本市南区城南町に設立いたしました。1999年からは半導体製造装置の組立にも着手し、九州地区の特徴であるカーアイランドおよびシリコンアイランドの両方の顔を持つ会社です。近年、国内外を問わず、人権侵害事案や人権侵害が懸念される報道を目にする機会が増え、ビジネスと人権への関心は世界的に高まっていると感じております。

人権の尊重は、私たちのあらゆる事業活動の基盤となることであり、グローバルに事業を展開する私たちアイシングループとしてそれぞれの国・事業での活動に関する様々な人権課題について理解を深め、適切な行動を取っていくことが私たちに求められていると強く認識しております。

そこで、アイシングループ全体で「国際ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、国際的に認められた人権を尊重し、活動を行う国の国連法令の遵守を徹すべく「アイシングループ人権方針」を定め、人権尊重へのコミットメントや教育・定着に取り組んでおります。

当社の活動としては、2017年より実施しているパラリンピックの競技でもあるユニバーサルスポーツ「ボッチャ」の活動支援や、2021年より親会社が開発したリアルタイム音声認識アプリ「YYProbe」を導入し、誰もが働きやすい職場づくりを進めております。

これからも、“誰もが安心・快適な未来を創る”ことを目指し活動してまいります。

株式会社ワード・ハウスミズ
津出 智宏 代表取締役
(令和6年度(2024年度) 理事)

ワード・ハウスミズは、創業以来「情報処理サービス・IT研修」を通じて多彩なビジネスサポートに取り組んできました。

当社では離職者が再就職に必要な技術や知識を習得するための職業訓練を実施しています。訓練では、仕事に必要な知識や技能を高めることも重要ですが、相互の交流や支えあい、協力が大切なことを日頃から伝えています。

仕事をして社会的な自立を目指すには人権を大切にしたい。キャリア形成がなければ実践できません。物事の本質や意味を理解するには思考力、想像力、コミュニケーション能力、判断力などを身に付けることによって、人権と平和に貢献できるものだと考えています。

また、情報処理サービスでは、大切なお客様の情報をお預かりしています。情報の収集、保存、共有、利活用について適切な規制や啓発活動、倫理的ガイドラインの整備などお互いの人権を尊重した正しい行動が必要だと感じます。

情報処理技術や通信技術が飛躍的に発展し、情報の役割はますます高まり、特にインターネットでは、特定個人を誹謗中傷する書き込みやプライバシー侵害が増加しています。

インターネットを利活用するときも、直接人と接するときと同じようにルールやモラルを守り、相手の人権を尊重することが大切です。お互いの顔は見えなくても、つながった先にいるのは、心をもつ生身の人間であるということをお互いにお互いに思いやりの心をもって情報リテラシー・コミュニケーションをとることが大事なことです。

ラブミンだよりについてご意見・ご感想等ございましたら、下記までご連絡ください。

〒860-8601
熊本市中央区手取本町1-1
熊本市人権啓発市民協議会事務局 (熊本市役所人権政策課内)

〔電話番号〕 096-328-2333
〔F A X〕 096-324-2105
〔メールアドレス〕 lovemin.kumamoto@gmail.com

熊本市人権啓発キャラクター「ラブミン」



人権協ホームページ
<https://lovemin.jp>

令和6年2024年

秋号

水俣病をめぐる人権について

～水俣病患者家族に生まれて～



水俣病資料館 語り部
杉本 肇

水俣病公式確認から六十八年を迎えて、未だ解決していない問題も多くありますが、変わって来たものもあります。それは、県内では「肥後っこ教室」などで水俣病資料館に来館し、水俣病を知る機会が増えたこと。また他県や海外からも水俣に訪れ、水俣病の歴史を学ぶ方も多くなって来たということです。

私は水俣病患者家族に生まれました。育っていく中で、両親や祖父母の健康被害が重大であることを知りました。また家族が差別を受けたことも聞きました。水俣病の発生当時、その原因がわからず奇病や伝染病と疑われ、患者さんやその家族は差別を受けました。その後、原因が特定しても被害の実態は明らかにならず、周辺住民は魚を食べ続けたり、健康被害がありながらさまざまな事情で被害申請をしない人もたくさんいました。救済の遅れや水俣病をめぐる差別発言などは正しい情報を多くの方々共有出来なかったことも原因ではないかと考えています。

被害は公害病の原点と呼ばれるほど大きく、たくさんの発信をした水俣ではありませんが、私たちの育った学生時代は誰もこのことを口にしませんでした。当時、水俣病は水俣から避けられていました。多くの人は水俣病を詳しく知る機会を失っていたのです。混乱のなかでは語れない、学べない、時代だったのかも知れません。

私も若い頃水俣出身と言えなかったし、水俣病の話は避けかかった。それは水俣病に対する正しい知識がなかったからだと思う。今、水俣病の教訓から思うことは、起きたことを知ること。問題の本質を正しく理解すること。はととても重要なことだと思っています。また知識は差別に対する力になると思います。多くの方々水俣病の歴史に触れることで差別はなくなってゆく、そう信じています。

